

平成 29 年度福岡市博物館協議会（H 3 0 年 3 月 2 2 日開催）の主な意見

キーワード	主な意見
金印ロード	○金印ロードの全体の中での位置づけがはっきりしない。全体の中でのプロジェクトが占める位置づけとフィードバックについての説明がない。負担金がなくなると終わってしまうのでは。（中野委員） ○これだけの事業をして博物館は変わった。補助金がなくなっても継続を。（森委員） ○市の施策（外向き）から見ると、金印は内向きマーケティングでは。（山下委員） ○コンテンツとしては国際スタンダードに達している。国際的な場でのプレゼン、フィードバック、市民への公開といったプロセスで世界的な博物館になってほしい（溝口委員） ●これからの博物館というテーマで議論を始めた。変化の途中というご理解を（米倉） ●基本のブランドデザインが描かれてないのは指摘のとおり。ミッションステートメントの議論にとりかかろうというところ（有馬）
評価・協議会の在り方	○これまでの評価が必要。事業報告が展示と入館者数だけでは評価できない。次年度事業の説明も展示だけでは議論できない。入館者の声の反映から、質を把握することも必要。今後の在り方を考える前に、今までどうだったのかを見直し、この会議で何を議論するのか、会議の運営方法を工夫することが必要。（中野委員）
多言語	○外国人の来館者が増えており、外への P R 等が効いているのでは。Q R コードサービスは今後も継続するのか？（山下委員） ○多言語ガイドブックはどこで手に入るのか？ぜひ公開をしてほしい。（山下委員・サーズ委員）
コミュニケーション、P R	○金印ロードの全体の中での位置づけがはっきりしない。なぜ金印というアイコンなのか。（中野委員） ○館のコミュニケーションデザインと世の中へのパブリックリレーションズの戦略を立てることで様々な問題が解決できる。（岩永委員）
大学との連携	○都市圏大学のネットワークを活かしていろいろできる。専門学生を含め 11 万人の学生がいるが、そこが弱い。大学等が連携できるプログラムのスキームを提示して欲しい。（山下委員）
地域連携	○博物館が外に出かけて発信したことはすごい。玄界島などローカルな取り組みも大事だが、市全体に発信することも大事ではないか。（梶山委員） ●地域住民の日常生活おいて残されたものを積極的に収集し資料にする柱がある。課題は、それをいかに地域の人が使いやすいような資源に、データ化や翻訳をすること。難しいがチャレンジして成果を出していきたい。（有馬）
教育普及	○交通費の問題があるが、学校と博物館の距離が遠くなった。世界に羽ばたく子どもたちが福岡の歴史を追及できるコンテンツを。要請があれば学校も協力する。（太田委員） ○博物館に来る小中学校の数が少なすぎる。学校との協力に懸念がある。（藤島委員）

